

国立病院機構熊本医療センター

くまびょうNEWS



医療連携に対する
熱い思いを共に ...。

【特集】

平成 30 年度 第 1 回開放型病院連絡会

- VOICE
- くまびょう TOPICS
- 医学シリーズ 眼科
- いま、何が研究されているか 理学療法士
- 研修医レポート
- 研修のご案内
- 研修日程表

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 良質で安全な医療の提供 | 4. 教育・研修・臨床研究の推進 |
| 2. 政策医療の推進 | 5. 国際医療協力の推進 |
| 3. 医療連携と救急医療の推進 | 6. 健全経営 |

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

平成30年度第1回(通算45回) 開放型病院連絡会が開催されました



平成30年度第1回(通算45回)国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、9月3日(月)午後7時より、ホテル日航熊本(5階阿蘇の間)にて開催いたしました。登録医の先生方及び地域医療連携ご担当の皆さまほか377名の方々にご出席いただき、院内スタッフ139名と合算して総勢516名と多くの方々にご参加いただきました。



熊本市医師会会長
園田 寛先生



熊本市医師会理事
緒方 一朗先生



熊本市歯科医師会会長
宮本 格尚先生

開会にあたり、高橋院長より、熊本市医師会及び開放型病院に登録頂いたご施設によるこれまでのご協力、ご支援に感謝を申し上げます。

続いて、開放型病院運営協議会委員長で、熊本市医師会会長の園田寛先生がご挨拶され、当院の地域の中核病院として、さらなる発展への期待を述べられました。

その後、熊本市医師会理事の緒方一朗先生と当院大塚副院長の司会で総会が始まりました。総会では、杉消化器内科部長より「フュージョン・イメージングを活用した肝細胞癌に対する次世代マイクロ波凝固療法」、福元整形外科医長より「両側同時の人工膝関節置換術の経験」と題し、症例の提示がありました。この後、渡邊地域医療連携室長による「地域医療連携室からのお知らせ」、菊川地域医療連携副室長による「紹介予約センターからのお知らせ」、と続き、最後に熊本市

歯科医師会会長の宮本格尚先生からご挨拶を頂き、清川副院長の閉会の挨拶で総会を終了いたしました。

総会終了後は、会場を隣に移して意見交換会が行われました。熊本市医師会会長の園田寛先生によるご挨拶及び乾杯のご発声で意見交換会が始まりました。診療科毎に設置されたテーブルを囲んで、終始和やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。途中、当院の各診療科部長(医長)一同がステージに上がり、大塚副院長が一人一人を紹介致しました。続いて、副看護部長、看護師長一同がステージに上がり、中尾副看護部長より紹介致しました。最後に熊本市医師会理事の緒方一朗先生の閉会の挨拶で盛況のうちに無事終了となりました。ご参加いただいた皆さまにおかれましては、お忙しいところ誠に有り難うございました。この会が当院との連携を一層深めていただき、地域医療を益々発展させる機会となれば幸いです。

(庶務班長 毛利 安則)



高橋 毅院長の挨拶



各診療科部長の紹介



副看護部長・看護師長の紹介

VOICE

登録医の声

新町メンタルクリニック 院長 中原 敏博



◆貴院のアピールをお願いします

うつ病専門病棟を持つ「桜が丘病院」の外來部門として開院しました。通常診療に加え、物忘れ相談や、依存症相談、性同一性障害などへの特別外來も予定しております。

熊本に6名しかいない精神看護専門看護師(CNS)や、精神保健福祉士も対応します。桜が丘病院のデイケア(目的型や復職支援)利用希望、処遇困難例、訪問看護なども御相談ください。スタッフ一同、気軽に相談出来るメンタルクリニックにしたいと思っております。

◆先生の趣味・お勧めスポットを教えてください

最近の趣味は、バイク(愛車はカブ 110cc (JA07 プゴブルー))と珈琲(お勧めは南阿蘇珈琲)。スピードの出ないバイクで、コーヒーを飲みながらゆっくりと走ることが楽しみです。

御船の津志田河原自然公園(乙女河原)での無料キャンプ場(師長おすすめスポット) 御船の恐竜バーガー

◆当院へのご要望をお聞かせ下さい

いつも精神科・心療内科の患者さまを快く受け入れていただきありがとうございます。

スムーズに患者さまたちの連携に役立てれば幸いです。

【診療科目】

心療内科/精神科

【診療時間】

午前 9:00 ~ 12:00

午後 13:00 ~ 17:00

【休診日】

木曜午後・日曜・祝日

【住所】

〒860-0004 熊本市中央区新町 1-7-17

【TEL】

096 - 288 - 1581



地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

地域医療連携室直通電話 **096 - 353 - 6693**

月～金(祝日を除く) AM 8:30 ~ PM 17:00



第98回「特別講演」開催

9月5日

熊本大学大学院生命科学研究部 神経精神医学分野教授 竹林実 (たけばやしみのる) 先生



「最近のうつ病診断と治療について」という演題で、平成30年

講演をされる熊本大学 ▶ 大学院生命科学研究部神経精神医学分野教授 竹林実 先生



7月1日から熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野教授に就任された、竹林実先生をお迎えして、9月5日に特別講演が行われました。院内外を問わず多くの方にご参加いただいた中、うつ病の診断および最新の治療法からうつ病発症の原因について大変興味深い内容で講演していただきました。また医師にとって臨床と研究を両立させることの重要性について強調されました。

統括診療部長
渡邊 健次郎
Kenjiro Watanabe



旧病棟（別3病棟）の同窓会を開催しました

8月18日

城の湯にて、別3病棟の同窓会を行いました。12年前のスタッフに声をかけ、杉先生はじめ、前田先生、田尻先生にもお越しいただき、懐かしい話もたくさんできました。私が新人だった頃の先輩方にお会いすることができ、初心を思い出すような気持ちでした。今年還暦を迎えた杉先生、田口さん（6東病棟）のお祝いもしました♪



▲ 12年ぶりに再会したスタッフ達で記念撮影 (上)

◀ プリントケーキで還暦を迎えたお祝い (下)



7階北病棟看護師
濱砂 純子
Junko Hamasuna



「第7回すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア」開催

—ELNEC-J in KMC—

8月18・19日

8月18日(土)、19日(日)に「すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア」研修が行われ県内の病院や訪問看護ステーション、老健施設から49名の参加がありました。今回は「その人らしさを支える」というテーマで講義と演習が行われ、生活(ライフ・命・生活)を支えるという看護の原点を改めてみつめなおす機会になりました。



がん看護専門看護師
安永 浩子
Hiroko Yasunaga



診療支援部門より

「第99回 ナースのための救急蘇生法講座 一・二の丸ICLSコース」開催

看護部

9月8日(土)に、当院にて「救急蘇生法講座一・二の丸ICLSコース」が開催され、アシスタントインストラクターとして参加させて頂きました。今回は院外看護師20名の方が参加されました。活発に意見交換をされ、知識・技術習得のために積極的に取り組まれていました。参加された方から「今までの研修で一番楽しかった」「現場で活かせるように周知したい」との声を頂き、大変有意義な講座となりました。



救命救急センター看護師
松尾 僚太
Ryota Matsuo



「夏のワゴンサービス」
実施しました♪

栄養



栄養士の実習生2名と『ひととま隊』田村主任考案の夏のデザート「コーヒーゼリーケーキ」と「レアチーズ・マンゴーソースかけ」のワゴンサービスを実施しました。「わー♪楽しみにしてました♪」という嬉しいお声をたくさんいただきました。



▲夏のデザート「コーヒーゼリーケーキ」



▲夏のデザート「レアチーズ・マンゴーソースかけ」

主任栄養士
北向 由佳
Yuka Hokko



「特定技能派遣研修
(摂食嚥下)」受講報告

リハビリ

8月8日(水)～10日(金)に福岡東医療センターで開催され、2名受講させていただきました。内容は、機能的解剖から評価、アプローチ、疾患別に対する取り組み等でした。言語聴覚士の未介入対象者で疑わしい方には評価し、限られたリハビリ時間の中で優先度を考慮してアプローチし、他部門との情報共有を図っていききたいと思います。

【理学療法士：

金柿夏美・手光文字】



修了証書を手記念写真。手光理学療法士(左)金柿理学療法士(右)

受験者確保対策—第3弾—

看護学校



▲学校説明会(8/25)：模擬授業風景
今回は、校内演習形式でした



▲学校説明の様子

今年は、学校説明会2回、オープンキャンパス1回を開催しました。高校生や保護者など130名あまりの方々に参加していただきました。看護技術体験や模擬授業を行い、看護学校を知っていただくよい機会となりました。今後も、受験者確保に努めていきたいと思ひます。

附属看護学校 教員
高木 佳寿美
Kasumi Takaki



日本循環器学会

臨床工学

第9回・第10回「PCASセミナー」参加報告

7月28日(土)・29日(日)に大阪で開催されたPCASセミナーに、循環器中嶋先生・CCU田中看護師と参加してきました。心拍再開後の呼吸管理・適切な補助循環・適切な温度管理を、実際にプログラミングやカニューレ挿入、機器操作を行うことで学び、最後に心拍再開した症例をチームシミュレーションしました。病院同士でチームを組みましたので、チームリーダー中嶋先生を中心に団結して取り組むことが出来たと思ひます。セミナーで学んだ内容を今後の業務に活かしていきたいと思ひます。



臨床工学技士
佐藤 朋哉
Tomoya Sato



最近のトピックス

前視野緑内障

眼科医長

えいき だいすけ
榮木 大輔



緑内障は①「緑内障特有の視神経乳頭・網膜神経線維層の所見」があり、②「①に対応した緑内障性視野障害」があることで診断されます。緑内障と診断されるということは、既に視野障害があるということであり、それは即ち不可逆的な網膜神経線維の変性が起きた後だということになります。

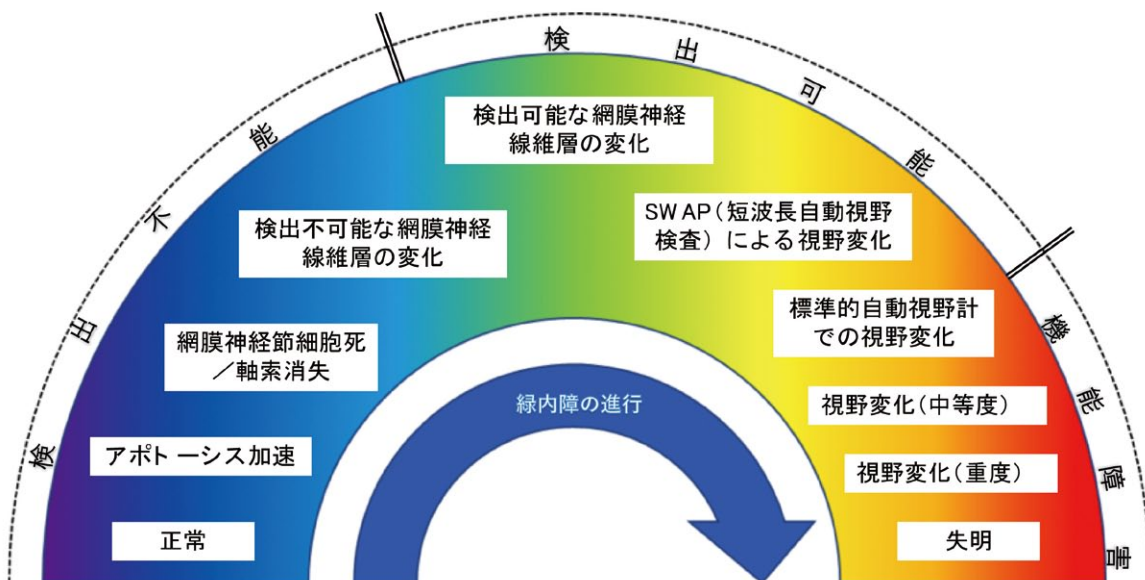
以前は明らかな高眼圧がないのであれば、眼底検査で緑内障が疑われる方は経過観察を行い、視野障害が確認できた時点で治療介入を行っていました。また、視野障害発症後は数か月毎に行う視野検査で明らかな悪化が認められたら治療強化を行うことになっており、つまりそこには緑内障の発症・進行を積極的に予防するという概念はあまり強く存在していませんでした。

その後の膨大なデータの積み重ねにより、緑内障の視野障害を進行させない眼圧管理についてある程度コンセンサスが得られるようになり、緑内障の「進行」を予防する、或いは失明を予防する治療戦略はかなり

明確になってきていると思われます。

近年新たに「前視野緑内障 (Preperimetric glaucoma、以下“PPG”）」という疾患概念が生まれ眼科医の間で普及してきました。これは、①「緑内障特有の視神経乳頭・網膜神経線維層の所見」はあるものの、②「①に対応した緑内障性視野障害」がない状態で、いわば緑内障の前駆病変ともいべき状態です。前述したとおり、この PPG は以前であれば高眼圧が無ければ経過観察のみでした。しかし、PPG を無治療で経過を見た場合、たとえ眼圧が正常範囲内であっても 5 年で約 20% の方が、10 年で約 40% の方が、20 年では約 70% の方が視野障害を発症するとして報告が出ています。逆に言えば PPG の段階で視野障害が出ないように病状をコントロールできれば、それが現時点で唯一緑内障の「発症」の予防となります。この報告では、例え正常範囲内であっても高目の眼圧であることが視野障害発症のリスクファクターとして挙げられており、PPG であっても眼圧を低値に保つことが出来れば視野障害発症は防げる可能性が示唆されています。

以前よりも平均余命が増えてきた現代において、PPG が真の緑内障に進行する時間的余裕も増えてしまっています。Quality of Life の重要な要素である Quality of Vision をより良くより長く保つためにも、緑内障とそのリスクファクターについての啓蒙を行い、20 代・30 代からの眼科検診への受診を推進することで、より早期の PPG 発見と適切な治療介入が望まれます。



大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパスを用いた歩行開始時期の要因解析

理学療法士 吉永 龍史

【はじめに】

大腿骨頸部骨折治療の連携医療の質向上を目的に、2003年10月熊本市南部西部地区に地域医療医ネットワークが立ち上がりました。現在は手術から回復期病院退院までの総入院期間は、人工骨頭置換術(BHA)8週間、骨接合術10週間を原則として、当院では63の医療機関と連携と地域連携クリティカルパス(パス)を運用させて頂いております。

【目的】

大腿骨頸部骨折でBHAのみを対象として歩行器および杖歩行開始の可否と時間要因について検討し、独立した影響要因別に歩行器および杖歩行開始率を明らかにすることとしました。

【対象】

対象は、平成20年4月から平成28年3月までの間にパスを使用して当院から転院した1040例のうち、認知症

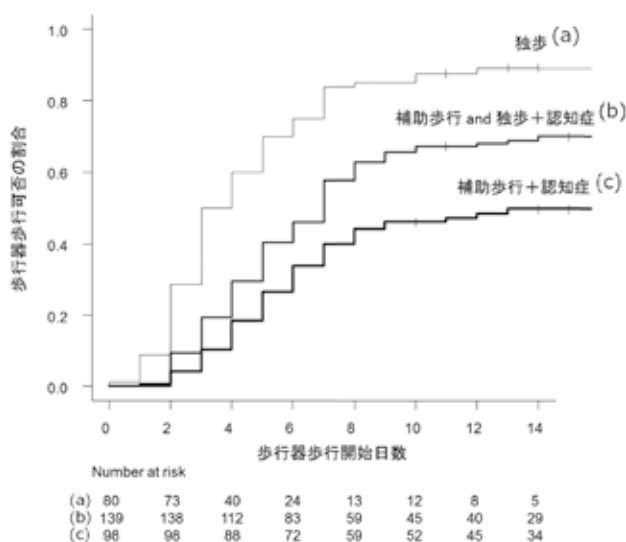


図1 当院における3群に分類した歩行器歩行開始率と時間の関係(術後2週間まで)

検査未実施などを除いた大腿骨頸部骨折318例でした。

【方法】

方法は、当院で使用されるパスに入力された項目について診療録から後方視的に調査しました。

歩行補助群とは、杖、押し車、歩行器および伝い歩きとしました。

統計解析は、歩行器歩行あるいは杖歩行開始期間それぞれを従属変数、パス抽出要因を独立変数としたCOX比例ハザード回帰を用いました。

【結果】

術後在院日数の中央値(四分位範囲)は、10(8-13)日となりました。歩行器および杖歩行開始日の両者ともに共通する独立要因は、受傷前歩行能力、認知症、痛みおよび股関節屈曲可動域が挙げられました。これら4項目は、年齢、性別、手術待機日数および膝伸展筋力MMTで補正してもなお有意な独立因子となりました。

次に、独立因子を用いて「入院前独歩群」、「入院前歩行補助群と入院前独歩+認知症群」および「入院前歩行補助+認知症群」の3群に分類してlog-rank検定を行った結果、すべての群間で有意差($p < 0.001$)を認めました(図1, 2)。

【結論】

大腿骨頸部骨折に対するBHA患者において認知症、受傷前歩行能力、痛みおよび股関節屈曲可動域は、歩行器および杖歩行開始期間に影響を与える両者ともに共通した独立因子となりました。また、術前情報から「独歩」、「歩行補助と独歩+認知症」および「歩行補助+認知症」で分類した3群は、術後の歩行器および杖歩行開始率を予測することができるようになりました。

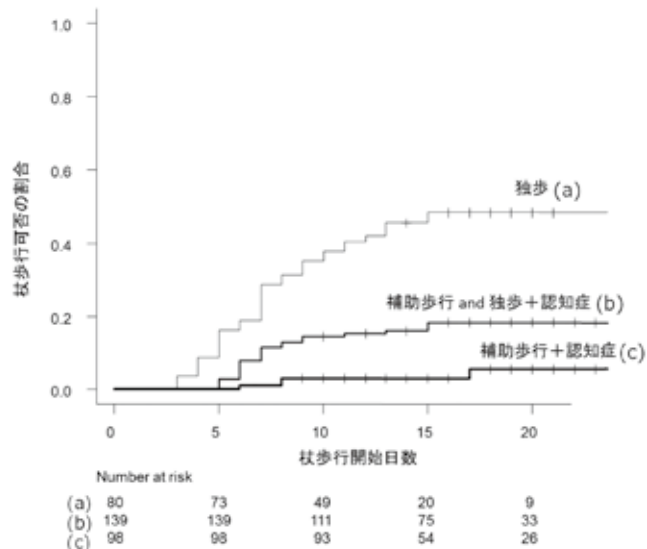


図2 当院における3群に分類した杖歩行開始率と時間の関係(術後3週間まで)

研修医レポート

臨床研修医

尾崎 陽二郎



こんにちは。研修医1年目の尾崎陽二郎と申します。

久留米大学医学部を卒業し、4月から熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。研修開始から5か月がたちますが、まだまだ診察やその他の業務についてもわからないことが大変多く、スタッフの皆さんに迷惑をかけながら精一杯日々を送っております。

私は4月に循環器内科から研修をスタートし、外科、血液内科と研修させていただいております。正直、最初は電子カルテの使い方、薬の処方、検査のオーダーなどを覚えることで精一杯でした。何もわからない私に指導医の先生をはじめ、スタッフ、研修医の先輩方が熱心に指導して下さい、なんとかかー通りこなせるようになりました。循環器内科では主に心筋梗塞、心不全の患者さんを担当

させていただき、実際の診断、診察、治療、心臓カテーテル、術後管理を経験させていただき、そこで私は、学生の頃の知識のままでは実際の臨床では全く歯が立たないことを痛感し、もっと深く勉強していかなければならないと感じました。

次にローテートした外科では、多くの手術を経験させていただきました。手術中には多くの手技を経験させていただき、術者の先生方がどうしたら手術がしやすくなるか常に考えながら、空気を読みながら行動し、積極的に行動しました。また、外科は手術だけではなく術後管理も重要で先生方から教わりながら学ぶことができました。

現在は血液内科で研修を行っております。血液内科では移植、抗がん剤治療などの様々な症例を経験しました。免疫が低下している患者さん、貧血、出血傾向があり輸血が必要な患者さんが多く、いままでローテートしてきた科とはまた違った雰囲気がありました。また、血液内科ではPICC挿入、骨髄穿刺、腰椎穿刺などの様々な手技を経験させていただいておりとても充実した日々を過ごしております。

救急外来の当直、研修医科のオンコールと忙しい日々ではありますが、周りの先生方から熱心なご指導をいただき、充実した研修を送っています。この先まだまだご迷惑をおかけすると思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

臨床研修医

小野 明日香



こんにちは。研修医1年目の小野明日香です。4月から熊本医療センターで初期研修をさせていただいております。私は熊本出身で、大学も熊本大学を卒業しています。

私は、4月に糖尿病内分泌内科から研修をスタートしました。初めてのことばかりで、カルテの使い方すらわからない状態でしたが、指導医の先生をはじめ病棟のスタッフさんなどたくさんの方にお世話になり、多くのことを学ばせていただきました。糖尿病や内分泌疾患の検査や治療についてだけではなく、患者さんとの接し方、様々なオーダーの仕方、カルテの書き方など医師として働く上で必要なことを優しく指導していただき、なんとか研修医としてのスタートをきることができました。実際に患者さんの担当をさせていただき、患者さんの背景を考えての治療の選択など、医療を行う上では知識だけではいけないということを改めて感じました。

次にローテートさせていただいたのは麻酔科でした。麻酔科では気管挿管をはじめルート確保、腰椎穿刺など様々な手技を学ばせていただきました。また、患者さんの全身状態の把握や、麻酔中の全身管理の仕方、薬剤の使い方など他の科では学べないことを経験することができました。実際に自分がさせてもらうとなるととても緊張感があり、全身管理の難しさ、自分の知識不足を痛感しました。

現在は救急外来を回っており、今週が最終週です。救急外来は4月から夜勤や土日の日勤などで経験してはいたましたが、患者さんの担当を決めて診療を進めていくというのは初めてで最初はとても不安でした。同期と相談したり、指導医の先生に教えていただいたりしながら、少しずつではありますが、患者さんを一から診て状態を把握し、必要な検査を考えるということができるようになりました。外来の経験というのは他の科ではなかなか経験することができないので、とても良い経験になりました。

まだまだわからないこと、できないことばかりで、たくさんご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯努力して日々成長していきたいと思っております。今後ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願致します。



研修のご案内

第99回 特別講演（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年10月3日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長

大塚忠弘

「放射線治療の現況と展望～技術と経験を次世代に繋ぐ」

熊本大学大学院生命科学研究部放射線治療医学分野教授 大屋夏生 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代表) 096-353-3515 (直通)

第15回 診断と治療－最新の基礎公開講座－

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成30年10月6日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：熊本県総合保健センター所長

土亀直俊 先生

演題：「炎症性腸疾患の最近の話題」

1. 内科の立場から

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

浦田昌幸

2. 小児科の立場から

国立病院機構熊本医療センター小児科部長

水上智之

3. 最新の薬物治療

国立病院機構熊本医療センター薬剤部主任

横田千明

4. 炎症性腸疾患の病態と最近の話題

熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学医員

古田陽輝 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025(直通)

第236回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年10月15日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 胆嚢疾患の2例

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

岡本祐毅

「第2症例 難治性吃逆で発症した抗MOG抗体関連疾患の1例」

国立病院機構熊本医療センター神経内科

満瀬葉介

2. ミニレクチャー「CKD患者に薬物を投与する際の注意点」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科

板井陽介

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第132回 総合症例検討会（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成30年10月24日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「診断から4年の経過を辿った進行期睪神経内分泌腫瘍」

(50代 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長

磯部博隆

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター病理診断科部長

村山寿彦

「進行期睪神経内分泌腫瘍と診断された50代男性が、診断から4年後に腹部膨満で入院となった」

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

2018
10月

研修日程表

国立病院機構熊本医療センター
地域医療研修センター

10月	研修センターホール	研修室
1日(月)		
2日(火)		
3日(水)	18:30~20:00 第99回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 大塚忠弘 「放射線治療の現況と展望～技術と経験を次世代に繋ぐ」 熊本大学大学院生命科学研究部放射線治療医学分野教授 大屋夏生 先生	
4日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「脳梗塞について」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 幸崎弥之助	
5日(金)		
6日(土)	15:00~17:30 第15回 診断と治療 -最新の基礎公開講座- 「炎症性腸疾患の最近の話題」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本県総合保健センター所長 土亀直俊 先生 1. 内科の立場から 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 浦田昌幸 2. 小児科の立場から 国立病院機構熊本医療センター小児科部長 水上智之 3. 最新の薬物治療 国立病院機構熊本医療センター薬剤部主任 横田千明 4. 炎症性腸疾患の病態と最近の話題 熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学医員 古田陽輝 先生	
7日(日)		
8日(月)		
9日(火)		
10日(水)		
11日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「急性腹症」 国立病院機構熊本医療センター外科医長 久保田竜生	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会(研2)
12日(金)	18:30~20:30 血液研究班月例会	
13日(土)	13:00~15:30 第150回 公開看護セミナー 「患者・家族の真の意向を引き出す意思決定支援」 国立病院機構熊本医療センターがん看護専門看護師 安永浩子	
14日(日)		
15日(月)		19:00~20:30 第236回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
16日(火)	19:30~21:00 第56回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「口の機能から嚥下障害を推察する ～咀嚼の意義、義歯の取り扱いについて～」 座長 熊本市歯科医師会 会長 宮本格尚 先生 講師 共愛歯科医院 副院長 園田隆紹 先生	
17日(水)		13:00~17:00 糖尿病教室(研2)
18日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「産婦人科疾患」 国立病院機構熊本医療センター産婦人科医長 山本文子 14:00~15:30 第67回 市民公開講座 「知って安心、肝臓の病気」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋	
19日(金)		
20日(土)	9:30~14:30 第43回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉 1. 心電図の基礎 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾雄治 2. 各種心疾患における心電図 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝 3. 不整脈 すえふじ医院 院長 末藤久和 先生	
21日(日)		
22日(月)		
23日(火)		19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
24日(水)	19:00~20:30 第132回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
25日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「泌尿器科救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医師 二口芳樹 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会	
26日(金)		
27日(土)		
28日(日)		
29日(月)		
30日(火)		
31日(水)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号

TEL(096)353-6501(代)
FAX(096)325-2519
連携室直通TEL(096)353-6693
連携室直通FAX(096)323-7601